作成日 2011年1月14日
改訂日 2025年1月29日

安全データシート（SDS）

１．化学品及び会社情報

化学品等の名称	殺菌剤ＢＨ
製品コード	
供給者の会社名	株式会社アマダマシナリー
住所	神奈川県伊勢原市石田２００
電話番号	TEL：0463-96-3221
お問い合わせ先および	オイルセンター
緊急連絡電話番号	TEL：0463-96-3290　　FAX：0463-96-3261
推奨用途	水溶性切削油用の殺菌剤
使用上の制限	推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。

２．危険有害性の要約

GHS分類　※「区分外」「分類対象外」「分類できない」は省略

物理化学的危険性	引火性液体	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分4
	皮膚腐食性／刺激性	区分1B
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分2（腎臓）
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期（急性）	区分3

上記で記載が無いものは、「区分に該当しない」、または「分類できない」。

GHSラベル要素

絵表示（ピクトグラム）

注意喚起語
　危険
危険有害性情報
　飲み込むと有害
　重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
　アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
　長期にわたる又は反復ばく露による腎臓の障害のおそれ
　水生生物に有害

注意書き
【安全対策】
　粉じん、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
　取扱い後はよく手を洗うこと。
　この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
　適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
　汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
　環境への放出を避けること。

【応急措置】
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を多量の水（又はシャワー）で洗うこと。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
吸入した場合、直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
【保管】
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規制に従って廃棄すること。　P501
他の危険有害性　：　データなし

３．組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　混合物
化学名又は一般名
別名　-
成分及び濃度範囲

有効成分

	①		②
化学名又は一般名	有機窒素硫黄系複合物　※		有機臭素系化合物
化学特性 （示性式又は構造式）	非公開	非公開	非公開
CAS番号	登録保証	登録保証	登録保証
官報公示整理番号（化審法）	登録保証	登録保証	登録保証
濃度又は濃度範囲	非公開		非公開
※： 有機窒素硫黄系化合物①、有機窒素硫黄系化合物②とマグネシウム塩の水溶液混合物。			

その他、溶剤として多価アルコール、水を含む。

４．応急措置

吸入した場合　・ 直ちに新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸困難な場合には人工呼吸等を行う。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合　・ 汚染した衣服を速やかに脱ぎ、直ちに付着部（皮膚）を多量の水又はシャワーで十分に洗い流すこと。
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察、手当てを受 けること。
汚染された衣服を再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合　・ 直ちに清浄な水で15分以上洗眼すること。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
洗眼を始めるのが遅れると障害を増大させるおそれがある。

	眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	・ 直ちに水で洗浄うがいし、速やかに医師の手当てを受ける。 意識不明の場合には、口から何も与えない。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	・ データなし
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	・ 救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	・ 本品は腐食性である。 無理に吐かせないほうが良いことがある。 粘膜を損傷する可能性があるため、胃洗浄は禁忌。

５．火災時の措置

適切な消火剤	・ 水噴霧、二酸化炭素、乾燥砂、粉末消火薬剤、泡沫消火薬剤。
使ってはならない消火剤	・ データなし
火災時の特有の危険有害性	・ 火災時に刺激性、腐食性、もしくは有毒なガスを発生するおそれがある。 加熱や燃焼により分解し、塩化水素、臭素、臭化水素、窒素酸化物、硫黄酸化物などの有毒で腐食性のヒュームを生じる。
特有の消火方法	・ 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火活動は、可能な限り風上から行う。 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。 危険でなければ火災区域から容器を移動し、温度上昇の危険があ る場合には周囲を散水冷却する。 容器が熱にさらされているときは、移さない。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	・ 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、ゴーグル型保護メガネ、化学用防護服、ゴム製保護手袋、ゴム長靴を着用すること。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項 保護具及び緊急時措置	・ 関係者以外の立入りを禁止する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 本剤は腐食性である。 作業者は適切な保護具（「８．ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項	・ 環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法・機材	・ 空容器に回収する。残分はオガクズ,ウエス等に吸着させ回収、廃棄処分する。 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	・ すべての着火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	「８．ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 出来るだけ換気の良い場所で作業する。 「８．ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

眼に入れないこと。
皮膚との接触を避けること。
飲み込まないこと。
取扱いの際には、飲食、又は喫煙をしないこと。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。薬剤が付着した場合は、必ず作業衣を着替え洗濯する。
取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

接触回避　・ 指定する薬剤以外とは混合しない。
「１０．安定性及び反応性」を参照。

衛生対策　・ 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。薬剤が付着した 場合は、必ず作業衣を着替え洗濯する。

保管
安全な保管条件　・ 雨水を避け、風通しの良い冷暗所に密栓して保管する。
盗難、紛失、落下等の事故防止に注意する。
本剤は、購入後６ヶ月以内に使用する。

安全な容器包装材料　・ ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレンなど。

８．ばく露防止及び保護措置

管理濃度　・ 設定されていない。

許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)
日本産衛学会　・ 設定されていない。
ＡＣＧＩＨ　・ 設定されていない。

設備対策　・ 屋内作業の場合には、出来るだけ密閉された装置、又は局所排気装置を使用する。
取扱い場所の近くに、目の洗浄および身体洗浄のための設備を設置し、その場所を表示する。

保護具
呼吸用保護具　・ 有機ガス用保護マスク
手の保護具　・ 耐薬品性の化学防護手袋
材質： ニトリルゴム、ニトリル/ネオプレンゴム
劣化、ないし薬剤の侵入を示す兆候が見られる場合は、直ちに手袋を外して交換すること。
眼、顔面の保護具　・ ゴーグル型保護メガネ、顔面シールド
眼の保護具は使用する呼吸用保護具に適したものを着用する。

皮膚及び身体の保護具　・ 作業衣、安全靴。状況に応じ、長靴、前掛け、ビニール製合羽を着用する。

９．物理的及び化学的性質

物理的状態
物理状態　：液体
色　：無色～黄色透明
臭い　：特異臭
融点・凝固点　：データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲　：データなし
可燃性　：データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界　：データなし
引火点　：なし（不燃性）
自然発火点　：データなし
分解温度　：データなし
pH　：4.4（1%水溶液）（代表値）
動粘性率　：データなし

溶解度	：水溶性（水にあらゆる比率で溶解する）
n-オクタノール／水分配係数（log値）	：データなし
蒸気圧	：データなし
密度及び／又は相対密度	：約1.19 （25℃）（代表値）
相対ガス密度	：データなし
粒子特性	：該当しない

１０．安定性及び反応性

反応性	・データなし
化学的安定性	・通常の室温条件下では安定である。
危険有害反応可能性	・加熱や燃焼により分解し、塩化水素、臭化水素、窒素酸化物、硫黄酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素などの有毒で腐食性のヒュームを生じる。
避けるべき条件	・加熱や燃焼
混触危険物質	・以下との接触を避けること： 酸化剤、アミン、還元剤、メルカプタン、アルカリ性化合物
危険有害な分解生成物	・分解生成物には、以下が含まれるが、これらに限定されない。 塩化水素、臭化水素、窒素酸化物、硫黄酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素。

１１．有害性情報

急性毒性（経口）	：マウス LD50値 600 mg/kg ［区分4］
急性毒性（経皮）	：データ不足のため分類できない。
急性毒性（吸入）	：データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	：JIS Z 7252:2019附属書B.2.3混合物の分類基準（加成方式）により区分1Bとした。 重篤な皮膚の薬傷
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	：JIS Z 7252:2019附属書B.3.3混合物の分類基準（加成方式）により区分1とした。 重篤な眼の損傷
呼吸器感作性又は皮膚感作性	
呼吸器	：データが不足のため分類できない。
皮膚	：JIS Z 7252:2019附属書B.4.3.4により区分１とした。 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖細胞変異原性	：データが不足のため分類できない。
発がん性	：データが不足のため分類できない。
生殖毒性	：データが不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：データが不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：JIS Z 7252:2019 附属書B.9.3混合物の分類基準（表B.29）により区分2とした。 長期又は反復ばく露による腎臓の障害のおそれ
誤えん有害性	：データが不足のため分類できない。

１２．環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 (短期/急性)　：魚毒性 ﾋﾒﾀﾞｶ 48時間　ＬＣ５０　11.6 mg/Ｌ ［区分3］
魚類に対し毒性があるので、高濃度の薬剤希釈液や洗浄廃液が海洋、河川、養殖池、下水道、地中に流失しないよう十分注意する。

水生環境有害性 (長期/慢性)　：信頼性のある慢性毒性データが得られていない。

残留性・分解性
ＣＯＤ（Ｍｎ）　：530ppm　（殺菌剤BH　1000ppm）

生態蓄積性　：データなし

土壌中の移動性　：データなし

オゾン層への有害性　：データなし

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物　：廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を依託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器および包装　：容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

１４．輸送上の注意

国際規制

ADR／RID（陸上）
国連番号　：UN　1760
品名（国連輸送名）　：CORROSIVE LIQUID, N.O.S.
腐食性液体、n.o.s.
国連分類（輸送における　：8
容器等級　：Ⅱ
海洋汚染物質　：非該当

IMDG（海上）
国連番号　：UN　1760
品名（国連輸送名）　：CORROSIVE LIQUID, N.O.S.
腐食性液体、n.o.s.
国連分類（輸送における　：8
容器等級　：Ⅱ
海洋汚染物質　：非該当

IATA（航空）
国連番号　：UN　1760
品名（国連輸送名）　：CORROSIVE LIQUID, N.O.S.
腐食性液体、n.o.s.
国連分類（輸送における　：8
容器等級　：Ⅱ
環境有害物質　：非該当

国内規制

陸上規制情報	：適用法令に従い輸送する。
海上規制情報	：船舶安全法の規制に従う。
航空規制情報	：航空法の規制に従う。
特別安全対策	：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号	：154

１５．適用法令

化審法 ：【優先評価化学物質】該当なし

消防法 ：該当なし

労働安全衛生法 ：【表示対象物質】（令第18 条） （2025年3月31日まで）
該当なし
：【通知対象物質】（令第18 条の２） （2025年3月31日まで）
該当なし
：【表示対象物質】（令第18 条） （2025年4月1日以降）
（則別表第2の726番） ジエチレングリコール
（則別表第2の1112番） 硝酸マグネシウム及びその六水和物
（則別表第2の1814番） ２－ブロモ－２－ニトロプロパン－１，３－ジオール
：【通知対象物質】（令第18 条の２） （2025年4月1日以降）
（則別表第2の726番） ジエチレングリコール 約36%含有。
（則別表第2の1112番）硝酸マグネシウム及びその六水和物 約4%含有。(無水和物として)
（則別表第2の1814番） ２－ブロモ－２－ニトロプロパン－１，３－ジオール 約16%含有。

：【危険物】（令別表第１）
（酸化性の物 その他の硝酸塩類）硝酸マグネシウム
：【特定化学物質、製造許可物質】（令別表第３）
該当なし
：【有機溶剤】（令別表第６の２）
該当なし
：【鉛則（鉛及び令別表第４第６号に規定する鉛化合物）】
該当なし
：【四アルキル鉛則（令別表第５第１号に規定する四アルキル鉛）】
該当なし
：【がん原性物質】（則第577 条の２）
該当なし
：【皮膚等障害化学物質等】（則第594 条の２）
該当する（有効成分による）
本品（原液）を取り扱う際には、皮膚障害等防止用保護具をご使用 下さい。

化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法） ： 該当なし
2023年3月31日まで

化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法） ： 該当なし
2023年4月1日以降

毒物及び劇物取締法 ：該当なし

１６．その他の情報

引用文献および参照ホームページ等

ＧＨＳに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル，作業場内の表示及び安全データシート（ＳＤＳ）（JIS Z 7253:2019）
GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針
2023年9月版 日本化学工業協会
NITE-CHRIP(化学物質総合情報提供システム)
欧州化学品庁（ECHA）EU CLP規則（GHS分類）

本安全データシート(SDS)は、JIS Z 7253:2019に準拠し、作成時における入手可能な情報に基づいて作成しておりますが、情報の完全性を保証するものではなく、随時改訂をすることがありますので、その旨予めご了承下さい。
ここに記載された数値は、規格値や品質を保証する数値ではありません。
危険有害性の評価及びデータは十分そろっているわけではありませんので、作業時は注意事項をよく守って取り扱って下さい。
また、注意事項等は通常の取扱いを前提としたものですので、特別な取扱いをする場合には、用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。
なお、御不明な点は弊社へお問い合わせ下さい。